

## 「市民参加による公有地でのレクリエーション計画策定を求めて」

山口 和男（山岳レクリエーション管理研究会）

### 1. はじめに

皆さんは、大雪山国立公園の公園計画書や公園管理計画書をご覧になった事があるでしょうか？自然公園に指定されていなくとも国有林や道有林でのレクリエーションに関する担当部局の計画書などをご覧になった事があるでしょうか？多くの方は、この質問に「いいえ」とお答えになるでしょう。何故この質問をするかと言えば、登山をはじめとするアウトドア・レクリエーションの分野で起こる諸問題はこうした基本計画と深くかかわっているからです。ここでは今後利用者が公有地でのレクリエーション計画に積極的に係わって行く必要性を述べます。

### 2. 公有地のレクリエーション計画の実態

トイレ問題は公園計画書ではどう扱われることになっているのだろうか？トイレに限らず、カウナイ沢での登山禁止措置（条件付で解除されていますが・・・）はどういう根拠でなされているのだろうか？知らないうちに木道が整備されたり登山道が開削されているが誰がどう決めているのだろうか？といった疑問は、われわれが常日頃持っている素朴な疑問です。

では本当にどうなっているのでしょうか？結論から言うと、公有地でのアウトドア・レクリエーションに関する計画書は、ほとんど策定されていなかったり、策定されていても具体的な利用と保護には言及されていない状況です。ですから、多くの公有地でのレクリエーション利用に関しては「野放し」状態ですので、その時々の問題があったときに対処するいわゆる「その場しのぎの対応」になっていますし、利用も「なし崩し的」に行われています。皆さんがこうした計画書をご覧になる機会がなかったのは、皆さんが見たいと思わなかった事もありますし、実際に利用者に見てもらおうような計画書などは存在していない事にもよるのです。すなわち、公有地での多様なレクリエーション利用の実態に対して、制度が未整備であるということです。

レクリエーションに関する制度が未整備であったとしても、行政としては利用者の意向とは別に必要に応じて整備したり規制をかけることができます。これは、公有地を管理する責任がある行政としては管理上必要な措置として認められています。このことが利用者が知らないうちに整備されたり、規制されたりする実態へと繋がっていきます。

話を少し変えて、都市公園についていいますと、最近では都市公園を作ったり改修したりするときには市民参加でワークショップをすることが多くなってきました。これは利用者の意向を聞いてそれを計画に反映させ、諸問題の勃発を未然に防いで効率のよい公園作りをしようというものです。こうしたやり方は1つの示唆を与えていると考えます。

### 3. 市民参加によるレクリエーション計画を求めて

前述した都市公園での市民参加のプロセスを公有地のレクリエーションにも反映させ、整備し管理をしていけば、現在よりも多くの疑問や諸問題が解決できると考えています。これが本タイトルでもある「市民参加による公有地でのレクリエーション計画策定を求め

て」ということです。先にも話しましたように、公有地におけるレクリエーションに関する制度面の未整備は色々な問題の原因ともなっているわけですが、ポジティブに考えれば、未整備だからこそ、これから我々の意見も取り入れて制度が作られていく余地も残されているという事です。こうした動きを利用者や利用団体が求めていくことが今後は必要だと考えています。

話が脱線しますが、私はアウトドア・レクリエーションにおける多様な利用に関する研究や利用者数調査などを手掛けていますが、これらのデータは今現在で役立つというよりも、将来に市民参加によるレクリエーション計画の策定が実施された際に、科学的で合理的な話し合いと意思決定が行われるために役立つと思っています。

話を元に戻したいと思います。先に述べましたように、利用者として公有地でのレクリエーション計画への市民参加を求めることだけすればよいという事でもありません。将来的に利用者として意見を求められた時に向けて準備をしておく必要があります。例えば以下のような点で意見を求められたとき、多くの関係者に受け入れられる1つの合理的な答え（問題解決のアイデアや計画に関する代案）を用意しておく必要があります。でないと注文や文句だけ言っていて、解決の手助けにならない利用者と思われてしまうからです。あり得る質問とは以下のようなものです。

Q1：行政としては、広く平等にアウトドア・レクリエーションを提供するという前提があるので、限られた場所で多様なレクリエーション利用があった場合、誰を優先させるのかを決めてしまう事は非常に困難である。

Q2：行政としては事故の時に責任問題が問われる。登山は危険だから面白いとか、登山は自己責任だという理屈は分かるが、それで行政への訴訟が無くなることは無い。だから行政は慎重に「安全で快適な登山のための施策」を考えてしまうのだ。これに対して、利用者側はどう答えてくれるのか？

・・・これらの質問に答えるには、価値基準をはっきりさせる必要があると思います。その価値基準が合理的（もしくは多くの人々が納得するもの）で無ければなりません。話が少し難しくなったので違う質問を皆様にして最後にしたいと思います。この質問の答えを考える事は意見を求められたときの為に準備しておく事に通じると思っています。

質問：ここにショートケーキが1つあります。欲しがっている子供が3人います。ケーキの分配方法をあなたは何通り考えられますか？（先ず3人に分けるのか？1人に与えるのか？・・・次に分配決定方法は何か、ジャンケン？話し合い？殴り合い？・・・etc）いくつか方法を検討したら、その中で一番お勧めの分配方法は何ですか？一番のお勧めにした根拠は何ですか？

(2005/2/8 文責：山口)